第7章　関連事業

関連事業の概況

NHKの関連団体は，それぞれの事業分野でNHKの業務を補完・支援し，NHKとともに豊かで多様な放送文化の創造に努めることを基本的な役割としている。

NHKの業務の効率的推進により経費の節減を図ると同時に，放送のデジタル化や，放送と通信の融合，社会・経済状況の変化等が進んでいく中でNHKのソフト資産・ノウハウの利活用や社会還元を進め，副次収入等の財政的寄与により視聴者の負担を抑制していくことなどを主な目的として運営されている。

関連団体については，今後も，NHKグループ全体の総合力を高めていくため，効率性と公共放送の質の確保という点で，よりバランスの取れたグループ経営に努め，一層の最適化を進めていく。また，NHKと関連団体の取り引きについても，さらに透明性を高めていく。

1．関連事業の体制

2011年度は，関連団体の再編・統合などは実施せず，11年度末現在，NHKの関連団体は，子会社13社，関連会社5社，関連公益法人等9団体の計27団体，総従業員数は6,294人である。(⇒p.794)

2．関連団体の決算概要

11年度の関連団体決算は，健保・共済会を除く25団体の単純合計額で，売上高（事業収入）3,013億円（対前年度147億円減），当期純利益（正味財産増減額）55億円（対前年度32億円減）であり，減収減益となった。

関連団体によるNHK副次収入への寄与額は，対前年度2億円減の66億円になった。

今期決算に伴う配当は，対前年度6億円減の31億円で，うちNHKの受取額は，対前年度4億円減の19億円となった。

3．団体に対する出資など

11年度は，新たな関連団体への出資や関連団体への増資はなかった。関連団体以外への出資・出捐（しゅつえん）については，一般放送事業者の教育・教養番組の一層の充実を図ること等を目的とする財団法人「放送番組センター」に8,085万円の出捐を行った。

Ⅰ．関連団体への番組制作委託

NHKでは，コンパクトな番組制作体制の下で質の高い放送番組を安定的に確保するため，11年度も10年度同様，関連団体への番組制作委託を進めてきた。また，番組の一層の多様化を図るため，関連団体を通じて，番組制作会社にも企画提案を求め，一部の番組制作を委託した。

関連団体への委託では，NHKエンタープライズに，『NHKスペシャル』などの大型企画番組，ドラマ番組（『ドラマ10』『土曜ドラマスペシャル』など），芸能番組（『BS日本のうた』など），アニメ番組（『おじゃる丸』など）の制作，購入番組の日本語制作などの委託を行った。

NHKエデュケーショナルには，『きょうの料理』『おかあさんといっしょ』『日曜美術館』『ニュースで英会話』など，生涯学習や教育・教養に関する番組の制作を委託した。

NHKグローバルメディアサービスには，大相撲，プロ野球をはじめとするスポーツ番組や，『ワールドWave』『ワールドWaveトゥナイト』『地球テレビ　エル・ムンド』などのニュース・情報番組を委託した。

総合ビジョンには，『アニメ　忍たま乱太郎』『アニメ　へうげもの』などのアニメ番組の制作を委託した。

NHKサービスセンターには，『BSプレミアム黄金の扉』『NHKプレマップ』などの広報番組や各種番組スポットなどの制作を委託した。

NHKプラネットには，『こんなステキなにっぽんが』『グラン・ジュテ～私が跳んだ日』『のんびりゆったり路線バスの旅』などの番組を委託した。

日本国際放送には，『J-MELO』『TOKYO FASHION　EXPRESS』などの国際放送番組を委託した。

Ⅱ．放送番組等の二次展開

1．映像・音声商品等の発行

NHKエンタープライズからは，「NHKビデオ・DVD」の名称で，『連続テレビ小説』「おひさま」「カーネーション」，『大河ドラマ～江』，ドラマ『八日目の蝉』，韓国ドラマ『イ・サン』『トンイ』，アニメ『ファイ・ブレイン』などの映像商品を発

行した。

またNHKサービスセンターからは,「NHKCD」の名称で『基礎英語１～３』などの月刊語学教材や『落語』のほか,『名曲アルバム』などの音声商品，ムック本『週刊ブックレビュー』を発行した。

２．放送番組および素材の提供

（１）企業・団体への番組の提供

一般企業・団体の研修用や展示，イベント用にNHKエンタープライズ等を通じて放送番組を提供した。

（２）BS・CS放送事業者への番組提供

NHKエンタープライズを通じて，CS放送事業者等に『大河ドラマ』「秀吉」「風林火山」「春日局」,『アニメおじゃる丸』,『NHKスペシャル～MEGAQUAKE』,『NHK歌謡コンサート』『もしドラ』などを提供した。また，NHKグローバルメディアサービスを通じて,『日本オープンゴルフ選手権』『日本女子オープンゴルフ選手権』などを提供した。

（３）CATVへの番組提供

NHKエンタープライズを通じて,『連続テレビ小説』「ちりとてちん」「おしん」,『大河ドラマ～篤姫』,『きょうの健康』などを提供した。

（４）機内上映用の提供

航空機の旅客サービス用として，NHKグローバルメディアサービスを通じて日本航空，全日本空輸などへ『NHKニュース』を，NHKエンタープライズを通じて日本航空へ『ためしてガッテン』『タイムスクープハンター』などを提供した。

（５）番組素材の提供

民間放送局および一般企業・団体への番組素材の提供をNHKエンタープライズを通じて，また放送大学学園への番組素材の提供を，NHKエデュケーショナルを通じて行った。

（６）キャラクターの使用許諾

NHKエンタープライズが,「どーもくん」などのキャラクターの使用許諾を行った。

３．デジタル事業

NHKエンタープライズを通じて，ブロードバンド事業者に『大河ドラマ～篤姫』や『NHKスペシャル』などを提供した。また，NHKグローバルメディアサービスが行う携帯電話等のモバイル端末向けのサービスに対し，NHKニュースやNHK番組の楽曲，映像クリップなどの提供を行った。

４．番組・素材の海外提供

関連団体を通じて，番組とニュース素材を海外の放送機関などへ提供した。NHKエンタープライズからアニメやドラマ，自然番組，教育番組を提供，日本国際放送からは「NHKワールドプレミアム」を配信した。

開発途上国の放送機関などには，NHKインターナショナルと連携し,「番組国際ライブラリー」の保存番組を公的資金によって提供した。

番組・ニュース素材については，NHKインターナショナルを通じてデジタルクリップを制作し，オンラインによる海外の放送機関や一般団体への提供を増やした。

５．放送番組関連の出版

『マテマティカ』『ファミリーヒストリー』『福島第一原発と放射線』『日野原重明100 歳』『NHKスペシャル～脳がよみがえる　脳卒中・リハビリ革命』『松本人志　仕事の流儀』『NHKスポーツ大陸』『タイムスクープハンター』などの番組に関連した出版物が，NHK出版や外部出版社から発行された。

関連団体

Ⅰ．子会社

１．NHKエンタープライズ

11年４月１日に財団法人NHKサービスセンターより，NHK番組の素材提供事業や「NHKアーカイブス」の運営について業務移行を行い，新たなスタートとなった。

11年度は，テレビ，ラジオ合わせて１万本を超える放送番組の制作をNHKより受託した。

地上波では，50年を迎えた『みんなのうた』に関して，年代別セレクションなどのスペシャル番組を多数制作した。また昨年一大ブームとなった『ハーバード白熱教室』のサンデル教授の関連番組として『マイケル･サンデル　究極の選択』『白熱教室JAPAN』『スタンフォード白熱教室』などを新規に制作。その他新番組としては『双方向クイズ　天下統一』『Amazing　Voice　驚異の歌声』など。ドラマでは,『マドンナ･ヴェルデ』『蝶々さん』『ビターシュガー』『神様の女房』『キルトの家』などを制作。

衛星放送では４月からの２波化に伴い，普及と

定着に向けた“キックオフスペシャル番組”を多数制作した。その新生BSプレミアムチャンネルでは,『BS歴史館』『旅のチカラ』『らいじんぐ産』『たけしアート☆ビート』『ショータイム』などの定時番組,BS時代劇として『新選組血風録』『塚原卜伝』そして映画にもなった『テンペスト』などを制作。また，秋には「きらり！東北」というテーマタイトルで『宿坊・ココロとカラダ満つる旅　東北路』『森と水の王国　東北とびっきりの生命のドラマ』などを制作。

震災関連番組としては，『あの日　わたしは～証言記録　東日本大震災』『ガレキに立つ黄色いハンカチ～山田洋次　震災と向き合う』などのほかに，BS1の定時番組『地球テレビ100』でも特番を制作。

海外ドラマは，『イ・サン』の地上波放送が開始され，BSでは『トンイ』『Glee』『デスパレートな妻たち６』などが放送された。

アニメでは大ベストセラーのアニメ化『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』が集中放送。新番組としては『ファイ・ブレイン～神のパズル』が，また人気漫画が原作の『バクマン。』は『バクマン。２』がスタート。他に定時番組として『アニメおじゃる丸』『デジスタ・ティーンズ』など。

自主事業としては，スタジオパークの展示改修を行い，デジタル技術を駆使した体験型の展示施設を完成させた。またデジタル放送普及推進イベントも昨年に続き各地のイベントや展示会場に出展した。「ロボットコンテスト（ロボコン）」は11年度も大学，高専，ABUの各大会を実施。また10年目を迎えた『東京JAZZ』の他，イベントや「認知症フォーラム」「フォーラム統合失調症を生きる」などのシンポジウムを開催した。大河ドラマ事業では，大河ドラマ50作を記念した「大河ドラマ50の歴史展」が全国９か所で開催，「平清盛ドラマ館」も呉市や神戸市など４か所でオープンした。また「ドキュメンタリー・オブ・AKB48」の制作委員会に参加し，NHKでの放送のほか，劇場公開，DVD発売と多面的に展開した。

このほか11年度には，『セカンドバージン』『サラリーマンNEO』『日本列島　いきものたちの物語』といったNEP制作の映画を劇場公開。

パッケージ事業では，1,000ディスク以上のDVD,ブルーレイ映像商品を発行した。中でも『イ・サン』『トンイ』『個人の趣向』『お嬢様をお願い』などの韓流ドラマが好調であった。『スペシャルドラマ～坂の上の雲』は第３部が発行され完結した。『大河ドラマ～江』『セカンドバージン』『連続テレビ小説～おひさま』のDVDも好調。ブルーレイでは他に『佐渡裕指揮 ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団』『小澤征爾指揮 サイトウ・キネン・オーケストラ』などを発行。

DVDと知育玩具のセットを宅配するNHKエデュケーショナルとの共同事業である幼児頒布会は第１弾の『いないいないばあっ！』シリーズが４月から発送を開始した。またDVDを毎月届ける映像頒布会事業は『さわやか自然百景』の第２期シリーズがスタート。『そのとき歴史が動いた』はDVDと解説本をセットにしたDVDマガジンパートワークが９月から刊行が開始された。

キャラクター事業では『いないいないばあっ！』『みいつけた！』『ぱっころりん』などのキャラクターの版権許諾，「おひさま」「カーネーション」「江～姫たちの戦国」タイトルロゴの展開を行った。また海外で版権を展開した「どーもくん」のキャラクター商品を日本に逆輸入して販売するなど新たな試みにも挑戦した。

番組の外部への提供では，BS／CS放送事業者13社18チャンネルに対し，合計245番組2,439本を提供，CATV事業者には延べ480局に，3,007本の番組を提供した。

NHKオンデマンド事業では，配信と「特選ライブラリー」分の編成・企画および支援業務を受託するとともに，プロモーションビデオ（計80本）や，YAHOO！への番組PR動画（５分×20本）の制作なども行った。

外部の配信事業者への番組提供（VOD）では，新規事業者６社を含む22社に対し,48番組を提供。

デジタル事業では，「東京ガールズコレクション」などのイベントや常設展示でデジタルサイネージ事業を展開するとともに，11年度は特に番組と連動した「双方向通信」への試みが行われた。

アーカイブス事業では，川口市のNHKアーカイブスの「番組公開ライブラリー」での公開番組や，教育機関への無償貸与番組などとして，多くの番組の権利処理を行った。

国際事業では，海外からの購入番組について，事業本部と連携したプロモーションを行った。また，海外への番組フォーマット販売などについても，社内各部と連携しながら取り組んだ。

２．NHKエデュケーショナル

教育テレビを中心に年間およそ１万本のNHK番組を制作するかたわら，番組関連テキストの編集，イベントの企画・制作，独自の映像ソフト制

作，デジタルコンテンツ制作，キャラクター事業など，さまざまな分野で事業展開を図っている。11年度は，教育テレビでは『きれいの魔法』『チャレンジ！ホビー』『大科学実験』『テストの花道』をはじめ，『すイエんサー』『みいつけた！』『クッキンアイドル　アイ！マイ！まいん！』『ニュースで英会話』『日曜美術館』『おかあさんといっしょ』『にほんごであそぼ』『きょうの料理』『囲碁の時間』『将棋の時間』『ここが聞きたい！名医にQ』『きょうの健康』『仕事学のすすめ』『テレビ高校講座』『語学講座』など，また，特集として『ETV特集』の「原発事故に立ち向かうコメ農家」などを制作した。

総合テレビでは『あさイチ』『サラメシ』『セカイでニホンGO！』のほか，特集番組『未来をつくる君たちへ』，『国宝 平家納経～平清盛 その美の世界』などを制作した。

衛星放送では『美の壺』『極上 美の饗宴』のほか，特集番組として『若冲ミラクルワールド』『知られざる在外秘宝』『ハイビジョン特集～カンブリアン・ウォーズ』などを制作した。

このほか，「東京国際キルトフェスティバル」や「国際バラとガーデニングショウ」「おかあさんといっしょスペシャルステージ」などのイベントの企画・運営，放送大学の授業番組の制作を行った。

３．NHKグローバルメディアサービス

NHKの報道部門とスポーツ部門を支援する関連団体として，フルデジタル時代にふさわしい質の高い多様なニュースや，魅力ある番組を安定して供給するための体制を強化した。

NHKからの委託では，BS1を中心とするニュース制作，番組制作，スポーツ中継，番組に文字を付加する字幕制作，デジタル放送のデータ制作，映像取材や編集，映像の海外送受信のほか，モバイル・インターネットのデジタルコンテンツ関連事業など多角的な業務を引き続き展開した。

また東日本大震災では，番組制作や被災地からの中継，データ放送なども活用した生活情報の発信など，長期化し多角化した報道を全社をあげて支援した。

各分野のうち，まずニュース系では，『BSニュース』『ワールドWave』『東京マーケット情報』『手話ニュース』を軸に，ニュースの制作・送出を受託した。

番組系では，東日本大震災の関連で「学校再開子どもたちは今」や「広がる放射能汚染」，「徹底討論　どうする原発」などの『クローズアップ現代』や『NHKスペシャル』，また被災地の復興をテーマにした『復興カレッジ』などを制作した。一方，BS1で『地球テレビ・エルムンド』などの新番組を立ち上げた。

字幕制作は，新たに総合テレビの『ゆうどきネットワーク』や『あさイチ』などに生字幕を付与したほか，東日本大震災では，『被災地いま訴えたいこと』や『福祉ネットワーク』などにも生字幕を付け，“災害弱者”とされる人たちへの情報提供に努めた。また，放送大学の７科目95番組の字幕も制作した。

データ放送では，これまでの東北や関西のNHK各局向けのデータ放送の制作に加えて，大リーグなどスポーツ中継を見ながらデータ放送も楽しめるサービスを開始した。また夏の高校野球では，初めて地方大会から途中経過も含めてデータ放送で伝えた。一方，アナログ放送の終了で文字放送を終了した。

スポーツ部門では，ドイツで開催された「女子ワールドカップ」を165時間にわたって放送し，なでしこジャパンのワールドカップ初制覇の快挙を多角的に伝えた。

一方，大相撲は不祥事で夏場所が技量審査場所になったため中継放送が中止となった。

この他，MLB中継では前年より30％多い301試合を放送。日本のプロ野球は109試合，サッカーはJリーグ39試合，天皇杯20試合の放送を担当した。

バイリンガルセンターでは，BSニュースや英独仏露，中国，韓国など，外国の放送局のニュース番組を日本語に通訳して放送するワールドニュースを中心にNHKから受託し制作した。また，『ニュース７』や『ニュースウオッチ９』などで英語による副音声の放送を担当し，東日本大震災などでも，日本在住の外国人や外国人旅行者への情報提供に貢献した。

国際回線のコーディネート事業では，「イギリス皇室の婚礼」「ビン・ラディン殺害」「リビア政権崩壊」など，世界情勢を反映した多彩な業務にあたり，海外提供では東日本大震災と原発事故で前年度の３倍以上の映像を世界の放送局に配信した。

モバイル事業の携帯サイト「NHKニュース＆スポーツ」は，NHKニュースやスポーツ，気象情報を中心に，生活に必要なさまざまな情報を有料でサービスしている。東日本大震災では，NHKの災害報道の一翼を担うサイトとして，情

報を無料提供し，携帯の機動性を生かしてきめ細かい生活情報などを伝えた。また９月からは，スマートフォンでの動画販売サービスの「NHK－G動画on！」を開始した。

４．日本国際放送

日本から世界に向けた情報発信の強化を目指し，テレビ国際放送の番組制作，ニュース編集，送出，受信環境整備などのNHK受託業務のほか，JIB独自の放送やインターネット配信など自主事業に取り組んだ。

11年度末には24時間視聴可能世帯数が１億5,405万世帯となった。番組の送出業務では，テレビ国際放送の安定送出に努めた。

受託番組は，定時：『J-MELO』『journeys in japan』『TOKYO EYE』『TOKYO FASHION EXPRESS』，特集：『FORBIDDEN　KYOTO』『LAST ARTIZANS』などを制作。

主なJIB独自制作番組は『Manabi-ya』（13本），『Biodiversity Explained』『Ready, Set, Charge』『Coexistence for East Asia 共生 “KYOUSEI”』（２本），『Test of the Best, Triathletes in Yokohama』，東日本大震災後に『Standing Up, Moving Forward』（３本），『The Road to Recovery』（２本），『Portraits of Courage』を制作。震災復興シリーズ『FORWARD』全42本の内，11年度は２月から15本を制作・放送，英語音声に中国語・アラビア語・スペイン語の字幕をつけ，多言語化を図った。その他，日本経済新聞社が制作する『NIKKEI Japan Report』（月１回），テレビ朝日系列の『福岡国際マラソン』英語版，国際交流基金制作『LIGHT UP NIPPON』等を放送。

インターネット配信では，１月末にホームページを全面的にリニューアルし，視聴環境を改善，VODの機能強化を図った。

５．NHKプラネット

NHKプラネットは地域に拠点を持ち，地域放送サービスの充実と，ネットワークを生かした地域情報の全国・世界発信，それに地域に貢献するイベントの企画・制作を行っている。全国発信番組では11年度「あさイチ産直ライブ」『こんなステキなにっぽんが』『グラン・ジュテ～私が跳んだ日』『のんびりゆったり路線バスの旅』『食べてニッコリふるさと給食』『ひるブラ』『福祉ネットワーク』を，国際発信番組では『journeys in japan』を受託し，各拠点で分担して制作した。

東京本社では，上記のほか震災復興支援の番組『きらり！えん旅』『産直リポート・つながれ日本』『新日本風土記』などの番組を制作した。

近畿総支社では，『歴史秘話ヒストリア』『俳句王国』『バラエティー生活笑百科』などの定時番組の制作，「西安世界園芸博」「国民文化祭京都2011」などのイベント企画，「川西英コレクション・夢二とともに」などの展覧会，NHK大阪ホールの管理運営などの事業を実施した。

中部支社では，『情報フレッシュ便　さらさらサラダ』『サタ★テン』『金とく』『めざせ！会社の星』などの番組制作事業，「東儀秀樹全国ツアー」「大和の尼寺三門跡寺院の美と文化」「セガンティーニ展」などの事業関連業務，「鵜飼ミュージアム」展示映像事業などを実施した。

中国支社では，『歴史ミステリー平清盛の夢～海上神殿・厳島神社の謎を追う』などの大河ドラマ関連特集番組の制作，「上田宗箇展」「石踊達哉展」などの展覧会事業，「鳥取県児童虐待・DV防止啓発業務」「食料フォーラム」などのイベント事業を実施した。

九州支社では，『きん☆すた』『ぐるっと８県九州沖縄』『海の細道をゆく』などの番組制作事業，「よみがえる国宝」「細川家の至宝」などの事業を実施した。

東北支社では，震災直後から６月まで仙台局の震災支援業務『東北ライフライン情報』の制作にあたった。また『ここに技あり』『てれまさむね』『情報パレット』等の番組や各種イベントを通じて被災地支援，震災復興に向け総力で取り組んだ。

北海道支社では，『つながる@きたカフェ』『この街きらり☆』『さわやか自然百景』『ダーウィンが来た！～ツノが命！知床のエゾシカ』『NHKスペシャル～幻の霧摩周湖神秘の夏』などの番組制作，「地球最古の恐竜展」などのイベントを実施した。

６．NHKプロモーション

放送関連イベントの企画・運営をはじめ，展覧会・博覧会，コンサート，フォーラム・シンポジウム・各種式典・講演会などのイベント事業を中心に，普及啓発用映像ソフト制作などを実施した。

11年度は，展覧会・博覧会では，「生誕100年岡本太郎展」「大英博物館　古代ギリシャ展」「世界最古の恐竜展」NHK大河ドラマ特別展「江」特別展「写楽」「空海と密教美術展」特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」特別展「北京故宮博物院200選」「大河ドラマ50の歴史展」など。

番組関連イベントでは，「NHK音楽祭」「NHKニューイヤーオペラコンサート」「NHK古典芸能鑑賞会」「NHKおかあさんといっしょファミリーコンサート」「NHKバレエの饗宴」など。

このほか，公共文化施設における子どもイベントの開催や「第12回地域伝統芸能まつり」「東アジア共生会議」「選定保存技術関連シンポジウム」「オリンピックコンサート2011」「ボストン美術館・浮世絵デジタル事業」「東日本大震災被災地応援キャラバン」「食と農の祭典～ファーマーズ＆キッズフェスタ2011」「ふるさとの食にっぽんの食全国フェスティバル」などを実施した。

７．NHKアート

NHKテレビ番組の美術制作（美術制作進行，大道具等美術用品の製作・運用，装置，装飾，衣裳，メーク，かつらなど）やセットデザイン，グラフィックス・CG等のデザイン制作を行う総合美術会社。また，特定建設業・一級建築士事務所の資格を持ち，文化施設・イベント等の企画，制作，設計・施工，運営までトータルに業務を行うほか，NHKホールをはじめとする10のホール・会館の舞台・照明・音響等の操作・運営管理を行うなど，テレビ番組美術制作で培ったノウハウを生かした多様な業務を行っている。

11年度は，NHK番組関連イベントでは「おかあさんといっしょファミリーコンサート」「渋谷DEどーも」「ロボットコンテスト」「NHK文化祭たいけん広場」「大河ドラマ『平清盛』展示館」「ふるさとの食にっぽんの食」などの会場設計･施工，展示制作等を担当した。また，ドームイベントの「バラとガーデニングショウ」「キルトフェスティバル」「テーブルウェア・フェスティバル」「世界らん展」，地域活性化イベント「地域伝統芸能全国フェスティバルにいがた」「神々の国しまね」「全国茶サミット静岡大会IN島田市」，アジア最大級の旅の祭典「JATA旅博」，メディア芸術の創造と発展を図る「文化庁メディア芸術祭」などの企画，制作，設計・施工，運営業務を行った。

８．NHKメディアテクノロジー

テレビ，ラジオ，データ放送などの制作・送出および立体ハイビジョン（3D）を含めたロケ・中継業務を主とする放送技術と，番組の編成・送出や報道業務を支援する管理システム，受信料の収納管理など，情報システムの設計・開発・運用を主とする情報技術を併せ持つ放送制作技術・ITソリューション提供企業「㈱NHKメディアテクノロジー（MT）」として会社統合から４年目を迎えた。

11年度は，３月11日に発生した「東日本大震災」「福島第一原発事故」報道に対して，本社・支社・事業所の各現場では，発災直後から番組取材・制作・送出および情報システム等の運用でMT全社をあげてNHKの災害報道を支援した。また，震災から１か月後の被災地を3D取材し，15分の映像記録にまとめ3Dルポルタージュとして公開した。また，東日本大震災アーカイブスプロジェクト「みちのく震録伝」に参加し，MTとして復興支援活動を展開するとともに，被災地の復興記録を取材した。

11年４月１日からのBS２波化，７月24日の地上デジタル放送への移行など，デジタル放送新時代への大きな転換点にあたり，放送技術系では設備整備支援・運用や特番に携わり，情報システム系においても，アナログ放送終了に関する告知スーパー制御装置の開発やシステムに関わる各種変更処理を行うなど，放送の安定運用を確保した。

放送技術関連では「日本シニアオープンゴルフ」などの中継業務を担当するとともに，「グレートサミッツ」では，MTが参画したクルーが世界最高峰のエベレスト登頂に成功し，山頂からの取材映像が放送された。設備面では，中継現場での時間計やスピードガンをデータ化する装置を放送技術本部と情報システム本部が共同開発し，番組制作に貢献した。

情報システム関連ではNHKの基幹システムである，「新放送情報システム（ICIS）」への移行完了，営業系システムの「災害免除対応」や「デジタル放送への切り替え勧奨対応」，その他にも「NHKネットクラブの対応」などを行った。

3-Screens展開では，「選挙開票速報HP」，ネットラジオ「らじる☆らじる」，NHK映像マップ「みちしる」を開発するなど，多種多様なNHKの情報システム分野の施策に的確に対応した。

９．NHK出版

NHK出版は，NHKの放送番組テキストおよびNHKの放送に関連した書籍・雑誌，放送関連以外の書籍・雑誌等の出版，販売のほか，音楽著作権の管理等を主業務としている。11年度放送テキストは『きょうの料理』などの家庭向けテキスト，『基礎英語』①②③や『テレビでハングル講座』などの語学系テキスト，『中高年のためのらくらくパソコン塾』や『仕事学のすすめ』などの趣味・教養系テキスト等，年間100点余のタイト

ルを発行した。なお，新規テキストとしては，資格取得に向けた案内書として『資格☆はばたく』，世界の名著を100分で読み解く『100分de名著』の２誌を創刊した。

放送関連では，11年度は大河ドラマ関連として『大河ドラマ・ストーリー　江～姫たちの戦国』の後編・完結編を発売。また12年『大河ドラマ～平清盛』については，ノベライズ全４巻のうち前半の２冊，「大河ドラマ・ストーリー」の前編を12月に発売した。その他，『連続テレビ小説～カーネーション』のノベライズ下巻，『スペシャルドラマ～坂の上の雲』第３部のドラマ・ガイド，韓国ドラマ『トンイ』の「ドラマ・ガイド」全３冊を発売した。

放送関連以外では，NHK出版新書『福島第一原発事故と放射線』をはじめとする東日本大震災関連書，『外事警察　CODE：ジャスミン』『サラリーマン川柳　いちおし傑作選』などを発売した。そのほか，翻訳書では『パブリック』『ものすごくうるさくて，ありえないほど近い』等を刊行した。実用書では，『別冊NHKきょうの料理定番料理の黄金レシピ』『NHK趣味の園芸　やさいの時間　藤田智の野菜づくり大全』などを刊行した。

また，電子書籍として，『大河ドラマ』「龍馬伝」「平清盛」，翻訳書の『パブリック』等のほか，電子アプリでは『語学プレーヤーアプリ』による音声コンテンツの配信を始めた。

10．NHKビジネスクリエイト

NHKビジネスクリエイトは，NHKグループのインフラ支援業務と事務支援業務を一元的に実施する総合サポート会社として，専門性を生かした事業活動を展開している。

インフラ支援分野では，NHK放送センター，千代田放送会館，NHK放送技術研究所，NHK福岡放送会館などのセキュリティ確保，建物・設備等の管理および環境整備をはじめ，電気・空調・給排水などライフラインの安定供給，ニュースや番組制作のための放送用車両の安全運行を行うなど，公共放送NHKの事業基盤を支えている。

また，NHK関連団体等が入居するビルの所有・管理を行っており，オフィス・スペースを長期的かつ安定的に確保するとともに，特に11年度は各ビルの耐震対策にも計画的に取り組んだ。

事務支援分野では，NHKからの受託による番組編成関連データの情報処理，NHKの調達・管財関連業務やNHK職員等の給与計算・採用事務関係業務のほか，『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』などの放送台本等の印刷，人材派遣サービスを行っている。

地上デジタル放送関連業務では，NHKからの受託による調達・管財業務において，11年７月以降，アナログ放送終了により不要となった中継所用地，関連する放送設備等の売却処分等を行った。

11年３月の東日本大震災発生以降，この１年間に取材の最前線などで延べ運行台数3,000台を超す報道車両の運行を担い，また刻々と変わる番組編成のデータ処理を長期にわたり実施した。首都圏の電力需給の逼迫（ひっ）に際しては，極めて厳しい状況の中，放送センターにおけるさまざまな節電対策を実施し，放送機能の維持に寄与するなど，幅広い分野で支援サービスを展開し，国民の安全・安心を守る公共放送NHKの使命を支えている。

12年３月「新たな時代への挑戦」をテーマに，平成24～26年度の中期経営計画『公共放送を支える創造企業へ』を取りまとめた。総合支援サービスを通じて公共放送NHKを支え，時代の一歩先を歩み，未来を創造し続けることを経営理念として掲げており，NHKグループを取り巻く社会情勢の変化を的確に捉え，さまざまな分野で専門性を発揮していくこととしている。

11．NHKアイテック

放送に関する技術力を基盤とする「総合技術会社」として，ニュース・番組の制作・送出設備，送信，受信，建築技術分野の「設計」，「施工」，「保守」を一体とした事業を展開している。

11年度は，地上テレビのデジタル化事業として，NHK，民放の送信設備やNHK共聴のデジタル化整備，アナログ送信設備の撤去業務の他，難視聴解消事業となるギャップフィラーシステムの調査・設計・設置業務などデジタル放送の普及や受信環境の改善施策も積極的に実施した。

東日本大震災の復興への支援として臨時災害FM局の設置に取り組んだ。

またケーブルテレビのハイビジョン化整備やマルチメディア放送事業，エリアワンセグシステム，ミリ波システムの開発など新しい技術を使ったシステムの開発や提案・受注，菖蒲久喜ラジオ第２放送所太陽光発電設備整備工事など，環境事業へも積極的に取り組んだ。

12．NHK文化センター

NHK文化センターは，全国52教室（12年３月末現在）で，教養・趣味・暮らし・芸術・健康な

ど，７万に及ぶ多彩な講座を展開している。会員は全国で約27万人を超える。

11年度は，「第25回国際交流祭inブレーメン」を実施し，展示，実演，舞台公演などで参加者107人，入場者は4,100人に上った。

また，NHKからの受託業務として，被災者の方のために「東日本大震災復興支援講座」を仙台市を中心に実施。11年６月から12月の期間中に計５回実施し，951人が参加した。また，NHK公開セミナ―では「大河ドラマ」「坂の上の雲」「きれいの魔法」などの番組出演者を講師に迎え，全国18会場で開催し，総入場者数は5,539人であった。

11年10月に「町田教室」（ミーナ町田に移転），12年４月に「京都教室」（四条SETビルに移転）をオープンした。

13．NHK営業サービス

NHK営業サービス（NBS）は09年度からの３か年にわたる「NBSプラン21－23」に基づいて，NHKの営業改革の推進を支援するとともに，プランに掲げた当初の計画を上回る成果を獲得することができた。11年度は，営業事務情報処理業務の全面受託後半業務を開始，また，渋谷区における受信料の契約・収納業務を受託し，年間の要求水準を達成した。プライバシーマーク取得企業として個人情報の保護の徹底を図りつつ，営業システムの安定運用を基に，より一層効率的な事業展開に力を注いだ。コールセンターでは全国４か所と連携しながら，丁寧・親切な視聴者対応を基本とした電話対応業務を実施した。現場活動の各種支援では地域スタッフ講習や法人委託講習の実施や育成に向けた教育用DVDの制作と併せて，営業パンフレットの企画・編集など契約・収納活動資材を制作した。

自主業務では，アナログ放送終了により急増した全国からの問い合わせに，総務省地デジコールセンターとして的確に対応した。関連団体から委託されたコールセンター業務についても円滑に実施した。また，「NBS経営プラン24－26」を制定するとともに新たな事業の開発検討を進めた。

Ⅱ．関連会社

１．放送衛星システム

株式会社放送衛星システム（略称B－SAT）は，BS放送における基幹放送局提供事業者として放送衛星を調達・所有し，その管制，運用のほかアップリンク業務，全局EPG（電子番組表）のデータ集配信業務を行い，BS放送の基本的なインフラ提供の役割を担う。

11年度は，11年８月７日に放送衛星BSAT－3cが打ち上げられ，性能確認を経て，９月21日にB－SATが引き取った。大災害等非常時においてもBS放送を継続して視聴者に届けるために，BSAT－3a・3b・3cの３機を中心とする衛星運用体制の確立に取り組んできたが，これが完成した。B－SATは，この３機に加え，BSAT－2a・2cの計５機の放送衛星を所有，運用した。

11年10月および12年３月に新規の認定基幹放送事業者がBSデジタル放送を開始した。これにより，日本に割り当てられているBS放送用の全周波数（12中継器）を使って39番組が放送された。この中には，地デジ難視対策衛星放送（衛星セーフティネット）を含む。B－SATは，全認定基幹放送事業者がB－SATの放送衛星および地球局（アップリンク）を使用する契約を締結した。

２．総合ビジョン

アニメーションおよびアニメーション関連番組の企画・制作を行っている。

11年度は，Eテレの長寿番組『忍たま乱太郎』をはじめBSP『へうげもの』などのアニメ番組を制作した。

『忍たま乱太郎』は12年度に放送開始から20年を迎える。アニメ関連番組では『忍たま乱太郎特番』を制作し，震災に立ち向かう人々に元気や勇気を届けた。併せて，これらの番組をDVD化，キャラクター商品化，ミュージカル等催し物化，海外展開するなどメディアミックス事業にも積極的に取り組んだ。

また，「NHK杯国際フィギュアスケート競技大会」の企画・運営に参画した。

３．NHK Cosmomedia（Europe）Limited

NHK Cosmomedia（Europe）の事業の大きな柱はNHKの制作能力，ノウハウを最大限生かした番組の制作およびリサーチ，通訳，機材の手配などのコーディネート業務と「JSTV」のチャンネル名で欧州，北アフリカ，中東向けにNHK番組を中心に放送する24時間の有料配信事業である。

JSTV事業では衛星やCATVを通じて60を超える国に放送を提供しており，契約数はおよそ8,300。同地域内の570以上のホテルでも視聴可能

である。また，１日平均５時間は「邦人向け国際放送」としてノンスクランブル放送となっている。

４．NHK Cosmomedia America, Inc.

NHK Cosmomedia America はアメリカにおける番組制作と国際映像展開の拠点を目指している。制作の大きな柱は，NHK番組の制作とリサーチ，通訳，機材の手配などのコーディネート業務。MLB（大リーグ野球）などのスポーツ中継業務も請け負っている。

国際映像展開では「TVジャパン」のチャンネル名でアメリカ，カナダ在住の日本人，日系人向けにNHK番組を中心とする24時間の有料配信事業を行っており，契約者数は７万9,000を超え，380のホテルでも視聴可能。また，１日平均５時間はノンスクランブルの「邦人向け国際放送」である。

５．ビーエス・コンディショナル　アクセスシステムズ

略称は「B－CAS（ビーキャス）」。NHKBSデジタル放送の受信確認メッセージや有料放送の視聴，それにデジタル放送番組の著作権保護などに利用されているICカード（B－CASカード）の発行・管理を行っている。

11年度は完全デジタル化の年にあたり，カスタマーセンターの機能を強化して視聴者対応に万全を期した。

11年度のカード発行枚数は3,325万枚，累計発行枚数は１億8,309万枚となった。

また，社会的インフラを担う企業として，引き続きコスト削減に努め，利用者負担の軽減を図った。

Ⅲ．関連公益法人等

１．NHKサービスセンター

公共放送の普及・浸透と視聴者サービスを担う財団として，視聴者とNHKとを結ぶさまざまな広報および視聴者サービス活動を推進した。

「NHKふれあいセンター」では，視聴者からの要望・問い合わせに対し迅速・的確な対応に努めた。アナログ放送は，岩手，宮城，福島の東北３県を除く地域では11年７月24日に終了し，東北３県では東日本大震災の影響により時期を延長し12年３月31日に終了したが，本部および仙台支局では体制を強化して円滑な移行に寄与した。

また，週刊番組情報誌『ステラ』や月刊誌『ラジオ深夜便』の発行，NHK広報番組の制作，語学講座番組の音声テキストCDの発行，各種の番組展示や催し物，印刷物などによって広報普及活動を推進した。『ステラ』については，11年４月８日号から番組表の刷新とオールカラー化を実施した。また，本誌誌面をPDF化した『電子書籍版ステラ』の販売を11年６月17日号から開始した。ステラMOOK『ラジオ深夜便　こころのエッセー』についても，電子書籍版を11年11月８日発売した。なお，東日本大震災の影響で放送番組の未定が相次ぎ，『ステラ』は創刊以来初めて11年４月１日号の発行を休止した。

東日本大震災の被災地支援の一環として，岩手，宮城，福島３県の避難所約30か所に，『ラジオ深夜便』６月号を寄贈した。

語学講座の配信では，新たに㈱NHK出版と共同でiPhone・iPad向けに，アプリケーションソフト（「実践ビジネス英語」など６講座）を配信した。

「NHKスタジオパーク」「NHKホール」「NHKみんなの広場ふれあいホール」「NHK放送博物館」では来館者を対象としたイベントや多彩な視聴者サービスを実施した。「NHKスタジオパーク」は東日本大震災の影響で11年３月21日から休館し，４月１日からはリニューアルのため引き続き休館していたが，10月10日，「新生スタジオパーク」としてオープンした。なお，東日本大震災に伴う節電要請に応えて夏場，「放送博物館」では開館時間を短縮し，「ふれあいホール」では平日の利用を中止した。

このほか，美術展など催し物の実施，文化・教養などの音声・映像ソフトや番組記念品の制作・頒布，語学・音楽・落語・朗読の配信事業会社への提供など，多彩な事業を展開した。催し物では，月刊『ラジオ深夜便』創刊15周年記念として「深夜便アートサロン」を11年11月29日，サントリー美術館で行った。

２．NHKインターナショナル

外務省や国際交流基金など公的資金による発展途上国の放送機関への番組提供や支援業務を行っている。また，放送制作のノウハウと映像コンテンツを生かして国際交流や海外放送機関への取材協力業務を行い，相互理解の促進を図っている。

11年度は，外国の放送機関に対して主にJICAからの委託でさまざまな支援や研修を行った。沖

縄では，途上国の研修生向けに３年間にわたる研修業務を始めた。アフリカ向けの案件も増え，ガーナとリベリアの国営放送局のクルーを招いて，東日本大震災の被災地を取材したり，エジプト・チュニジア・南スーダンで開かれたメディア支援セミナーに講師を派遣した。

海外放送機関への番組の提供面では，外務省の文化無償協力と国際交流基金の事業を合わせて22か国27機関に2,137本の番組を提供した。在外公館や大学など国内外の公的機関に，放送以外の目的で提供したDVD番組は6,487本に達した。

国際版番組の制作については，放送番組国際交流センターからの委託によるもののほか，大学や省庁，地方自治体からの依頼で映像コンテンツの制作を行った。震災後の日本の復興を伝える国際放送番組のひとつとして，地震の際に人的被害を出さなかった東北新幹線の安全性をアピールする番組を制作した。

また，日本や世界のメディア芸術を紹介する文化庁の３つのイベントを初めて受託。このうち東京・六本木周辺で12日間にわたって開かれたメディア芸術祭の「本展」には，５万人を超える来場者が訪れた。

中国関連の事業としては，中国ラジオ映画テレビ総局から「災害報道」「幹部研修」「送信技術研修」を受け入れた。また，日中アニメ交流年の一環として　日中アニメフェスティバル「アニソンコンサートin 北京」を実施した。

一方で，国際版番組ライブラリーの自主制作も進めた。11年度は，NHK番組179本（英語版66本と仏語版32本，スペイン語版59本，アラビア語版22本）と自主企画番組21本を制作した。

外国放送機関に対する協力としては，13か国・22放送機関，628件の中継・伝送業務を行った。

NHKの映像素材の国際展開を強化するため，映像素材オンライン海外販売の新ブランド「NHK ビデオバンク」を作った。放送用素材の提供は，東日本大震災の映像クリップを中心に大幅に増加した。

東日本大震災関連番組については，NHKスペシャルや「明日へ！再起の記録」の英語版13本を制作した。国際コンクール参加番組としては,「アラブの春」関連番組など55本を制作。さらにテレビ英語国際放送のNHKワールド用にも定時番組『サイエンスZERO』など78本の英語版を制作した。

また，NEWSLINE用に中国の上海・武漢でのリポートの制作を支援。東日本大震災の後も日本に残った外国人を紹介する番組「新しい絆」（30分）や地方自治体と連携した観光・語学学習番組「Meet＆Speak」の制作を行った。

日中映像交流年への協力として，中国中央テレビ番組の日本語版３本を制作，BS1で放送した。

海外の視聴者からNHK国際放送に寄せられる意見や要望，また，海外の委嘱モニターから送られてくるモニター報告を整理し，報告した。

海外からNHKへの訪問者に対して，懇談やハイビジョン視聴の設定，スタジオパーク見学の案内などを行った。

「第38回日本賞」や，「ABUデジスタ・ティーンズ」,「アジア教育プロデューサー会議」の運営などを実施した。「日本賞」には313本のエントリーがあった。

３．NHKエンジニアリングサービス

NHKの技術開発成果を広く提供する技術協力や保有特許の利用促進，新技術の実用化開発，デジタル放送の普及に向けた調査業務などを実施した。

11年度は地上テレビ放送共聴施設のデジタル化設計，デジタル放送普及に向けた講習会，地上デジタル放送送信設備の東京スカイツリー移行に伴う受信調査業務を実施した。

スーパーハイビジョンの新型プロジェクターを用いた放送技術研究所講堂設備の設計・施工，およびIBC2011シアター展示，国内展示における技術運用業務を行った。また，国際宇宙ステーション搭載カメラの技術運用，話速変換技術による速聴システムの開発，美術館などの映像・音声設備の整備・保守，超高層ビルによるテレビ受信障害予測，地デジ移行後の新メディアの技術コンサルなどを実施したほか，超高精細映像用のイメージセンサーと直視型表示装置の研究開発を行った。また，標準画像の頒布などにより技術者育成，新技術の普及に努めた。

４．NHK放送研修センター

NHK職員に対する研修は，プロフェッショナルとしてのコンプライアンスを備えた，信頼できる公共放送の担い手の育成を目的とし，入局から３～４年を「人材育成重点期間」として実施する基礎研修のほか，コンプライアンスの推進，職員倫理・公金意識の徹底，管理職・デスク層のマネジメント力の強化，各職員層に合わせた能力開発や意識改革を推し進める研修などを実施した（94研修153回，受講者数4,499人）。

このほか，eラーニングにより「NHK倫理・行動憲章，行動指針」や「放送倫理」など10コースを実施した（受講者数２万4,477人）。

民間放送局，海外放送局，ケーブルテレビ局，制作プロダクションに対しては，番組制作のノウハウ，放送技術の基礎や最新技術の知識・技能習得を図る研修を実施した。

民放連関連で，放送倫理をテーマとする「放送人基礎研修」や若手技術者を対象とした「テレビ技術研修会」を実施したほか，ケーブルテレビ局を対象に「番組制作コース」と「伝送技術コース」を設け，新入社員や初心者を対象とした専門研修を実施した。

また，海外の放送局に対して，国際協力機構（JICA）からの委託による放送技術や管理関係の研修を実施した。

ことばコミュニケーション事業では，「日本語センタースクール」「話しことば通信添削講座」「朗読事業」「先生のためのことばセミナー」「ビジネス界を対象にしたセミナー」などを実施した。

また，アナウンス室と共同で行う教育貢献として，各地の教育委員会からの依頼で指導法について意見交換したほか，新学習指導要領にいち早く取り組んでいる学校を取材し，ラジオ番組『ことば力アップ』を放送した。

このほか，放送のバリアフリー化を目指すNHKの生対応の字幕放送や解説放送の拡充に協力し，特に東日本大震災関連情報番組で障害のある被災者への情報発信に貢献した。また，NHK放送技術研究所が進める「高齢者に聞きやすい音声」や「外国人向けのわかりやすい日本語放送」の研究にも協力した。

５．日本放送協会学園

NHKの教育番組を利用して通信による高等学校教育を行い，放送の利用促進に寄与しているほか，NHK教育番組の充実改善に協力している。

また，生涯学習通信講座や介護福祉士，社会福祉士の国家試験受験資格取得のための通信教育を行っている。

〔通信制高等学校〕

NHKの放送を利用して学ぶ広域通信制高校で，本校のほか，全国33の協力校等でスクーリングを実施。08年度から単位制の教育課程に変更，また，11年度からは海外在住の生徒向けに海外eコースを新設した。

生徒総数3,672人，卒業生1,113人。これまでの卒業生総数は６万7,987人となった。

〔通信制福祉教育〕

専攻科社会福祉コース介護福祉士専攻（学習修了後，実務経験９か月で「介護福祉士」の国家試験受験資格を取得）は，学生総数632人，修了生223人，修了生総数３万3,823人となった。国家試験の合格率は全国平均63.9％に対し77.8％。

社会福祉士養成課程（２年間で「社会福祉士」の国家試験受験資格を取得）は，学生総数547人，修了生233人，修了生総数2,212人。国家試験合格率は全国平均26.3％に対し56.9％。

〔生涯学習通信講座〕

短歌，俳句，書道，絵画，写真，語学，実用講座など206講座・コースで国内外で年間約９万6,000人が受講した（対面型オープンスクールを含む）。これまでの受講者総数は延べ約530万1,000人に達する。また，学んだ成果の発表，実践の場としての作品展や短歌・俳句・川柳大会，学習効果を高めるためのスクーリングや学習の旅には年間４万3,000人の参加があった。

６．NHK交響楽団

オーケストラ演奏により，音楽芸術の向上発展を図り，その社会的文化的使命を達することを目的とした公益財団法人である。11年度は「マーラー／交響曲第８番〈一千人の交響曲〉」や「ブラームス／ドイツ・レクイエム」などを定期公演で演奏したほか，東日本大震災復興支援のための特別公演「ベートーヴェン／第９」を開催した。

11年度は東日本大震災の影響で５件の公演が中止となったが，定期54回，特別９回，地方７回，契約32回の公演を実施した。

これらの公演のほか，11年度はN響メンバーが小学校を訪問する「NHKこども音楽クラブ」をNHKと共催で８か所で開催，病院のロビーで室内楽を演奏する「病院コンサート」を３か所で開催，また東日本大震災復興支援のため仙台市で「NHKジュニアほっとコンサート」を開催したほか，宮城県内３か所で「NHKこども音楽クラブ」を実施した。

放送面では，N響の全定期公演がFMで生放送，BSP等で録画放送されたほか，ETV『N響アワー』で解説付き放送が行われた。また，『大河ドラマ～平清盛』テーマ曲の音楽収録を行った。

観客サービス面では，チケットの購入をクレジットカードで決済できるシステムを11年９月から導入した。

７．NHK厚生文化事業団

厚生文化事業団は，変わりゆく時代のニーズに的確に応え，社会福祉の増進に資するため，NHKグループの社会福祉法人として放送と連携しながら，障害者福祉，高齢者福祉，ボランティア促進事業を実施している。

11年度は，東日本大震災の被災地支援活動に年間を通して取り組んだ。チャリティー事業「福祉大相撲」では，福祉車両８台を震災で被害が大きかった岩手，宮城，福島の福祉団体に贈呈した。また神戸で開催した「歌謡チャリティーコンサート」の純益を震災義援金として寄付。震災から１年の３月には，チャリティー「朗読と音楽の夕べ」を三島市で開き，その収益を，被災地支援活動をするボランテイアを応援する募金に寄付した。

このほか，事業団の主な事業は次のとおり。

・障害者の自立と社会参加をテーマに「NHKハートフォーラム」を各放送局とともに開催した。

・子どもの発達相談会を実施したほか，発達障害のある子どもを対象にした療育キャンプを行った。

・NHKの地域放送局と連携しながら「認知症フォーラム」を全国で実施し，地域放送で放送された。

・高齢者の健康と生きがいをテーマにしたEテレ『福祉ネットワーク　すこやか長寿』の公開イベントを各地で行った。

・「NHKボランティアネット」では，東日本大震災に関する情報や，広い世代にボランティアへの参加を促す情報提供サービスを強化した。

・高齢社会の生き方を描く「NHK銀の雫文芸賞2011」や，障害者の体験や福祉の実践を記録する「第46回NHK障害福祉賞」を実施した。

・チャリティー事業を行い，障害者や高齢者の施設・団体に必要とされるものを贈呈した。また，地域で福祉活動に取り組むグループを支援する「わかば基金」では，被災地を含め各地の福祉グループに，支援金やNHKグループで不要となったパソコンを提供するリサイクルパソコンの支援を行った。

８．日本放送協会健康保険組合

健康保険法に基づき，被保険者と被扶養者に対して，保険給付ならびに保健事業を行っている。

11年度は，保健事業として各種予防接種や検診への経費補助，メンタルヘルスへの対応等，疾病予防や健康保持･増進のための諸施策を実施した。そのほか，特定健康診査の受診勧奨や特定保健指導対象者への利用促進を図ることにより，メタボリックシンドロームの予防および改善に取り組んだ。

９．日本放送協会共済会

NHK役職員とその家族などの生活向上と，退職者とその遺家族の救済，援護等を行うために，食堂の運営，物品販売，生涯生活設計相談，各種給付・貸付，各種保険の団体扱いおよび転勤者用住宅の管理・運営等の福利増進施策を行った。